

第4学年 国語科学習指導案

令和元年10月18日（金）6校時

4年2組 児童32名指導者 伊賀 大祐

- 1 単元名 「戦争」をテーマとした本を読んでブックトークをしよう
教材名 「世界一美しいぼくの村」（東京書籍4年下）
「一つの花」（東京書籍4年上・読書の部屋）
「戦争」に関する本

2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、6月「走れ」で、登場人物の気持ちの変化について想像して読み、話し合う学習を行った。場面と場面、中心人物と対人物を関係付けて読み、中心人物の気持ちが大きく変化した理由を考え、グループで意見交流をした。しかし、読みの力に個人差があり、場面のつながりや人物の関係性の捉えが弱く、表面的な読みに留まる様子が見られた。また、伝え合う場面では、自分の考えやその根拠を明確にして伝えることのできない児童も多々見受けられ、対話で考えを深める活動は不十分であった。

4月実施の標準学力調査では、話すこと・聞くことの領域では、聞きたいことを元にインタビューの質問を考えることの正答率が全問題中で最も低かった。また、読み取ったことや自分の考えたことを発表することが苦手な児童も多くいる。

(2) 単元観

本単元では、学習のゴールとして、内容につながりのある物語を複数読み、共通のテーマをもって、そのおもしろさ（登場人物と対人物との関係や気持ちの変容、表現の美しさ等）を紹介するという言語活動を設定する。今回は、自分の読んだ物語を紹介する場として、ブックトークをさせる。ここでのブックトークとは、一定のテーマを立てて2冊以上の本を複数の聞き手に紹介する活動である。今回は戦争と平和に関わる物語を読み、それぞれに見出した共通のテーマを挙げ、読んで印象に残った内容や表現など根拠を明確にさせながら紹介させたい。この活動を通して、物語をより深く味わうことができるとともに、物語の背景にある作品のテーマに目を向けることにより、作品の読解も深めることができると考える。そして、自分とは違った友達のいろいろな読みを知ることで、新たな発見をしたり、さらに自分の考えを深めたりすることが期待できる。新たな本を読むきっかけとして、今後の読書活動の幅が広がるようにしていきたい。

本教材は、アフガニスタンに住む少年、ヤモの一日を取り上げ、その日々の生活が戦争により破壊される悲惨さを感じさせる物語である。最後の一文で物語が大きく展開し、読み手に強い印象を残す。また、同時に取り上げていく「一つの花」では、ゆみ子と家族の絆を描いた物語で、戦争の悲しみや平和の尊さについて考えることができる。ともに戦争と平和を取り上げており、家族を思う気持ちや描かれた自然の美しさ、終末表現の効果、題名の意味など共通する観点を見つけながら読むことに適した教材である。

(3) 指導観

本単元の重点指導事項は、学習指導要領におけるC読むこと（1）オ「文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。」と（1）カ「文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。」である。

第一次では、単元のゴールとして図書館から昨年度の本の紹介カードがとても良かったので、今年の読書週間に向けてまた本の紹介カードを書いてほしいと要請されたことを知らせる。学年が一つ上がった分だけ紹介する本を2冊にしたいと考え、つながりのある物語を読むという学習課題を設定し、「世界一美しいぼくの村」と「一つの花」を取り上げる。ブックトークは両教材

のいずれかと自分が選んだ本を関連付けて行うことも知らせる。併せて、教室内に複数の戦争・平和に関する本を置き、並行読書を促し、見通しを持たせて二次の学習につなげていく。

第二次では、観点をもって物語を読むことで、より深く作品世界を味わえることを実感させたい。そのために毎時間共通の読みの観点を持たせ、2つの教材を行き来しながら読む。まず、両教材の全文を読み、登場人物・あらすじをおさえる。次に、登場人物の家族や村など、何かを大切に思う気持ちを読み取る。そして、結末部分の効果や題名の意味などについて考え、交流の場を設定して対話させたい。同じ作品、同じ観点であっても、感じたことはそれぞれであり、友だちの考えを聞き、自分と似ている点、違う点に気づき、作品の感じ方はそれぞれ異なることをおさえ、友達の考えを知ることで自分の考えが広がることを体験させたい。最後に「世界一美しいぼくの村」「一つの花」で紹介文を書き、プレブックトークを行う。

第三次では、「世界一美しいぼくの村」「一つの花」のいずれかと並行読書をした本やこれまでに読んだことのある本の中から紹介したい本を選び、紹介文を書く。そして、その紹介文をもとにブックトークを行う。活動後はグループで感想を交流し、自分とは異なる友達の読み方に気付くことができるようにしたい。ブックトーク後は、紹介カードを図書館に掲示し、全校に本の良さを伝えていく。

本時では、物語の最後の終わり方の効果について考え、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができるようにさせたい。そのために「世界一美しいぼくの村」では、ヤモの家族やパグマンの村に対する思いを想起させる。最後の一文から感じ取ったことを交流させたい。また、「一つの花」の最後の場面の効果についても考え、同じ戦争を取り扱った教材でも終わり方に違いがあることに気付かせ、最後の一文がある効果について考えさせたい。

3 単元の目標

- 「戦争」をテーマとした物語を読み、読んだ本のおもしろさをブックトークで伝えることができる。
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。

～はりまや橋小学校「学校図書館の活動を通してつきたい力系統表」より～

【情報の表現・伝達】 相手や目的に対して、適切な方法を選んで表現・伝達する。
(文章、スピーチ、ポスター、リーフレット、パンフレット、新聞、紙芝居、ブックトーク、ペープサート、劇等)

4 重点指導事項

- 【C(1)オ】** 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
- 【C(1)カ】** 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現 【 C 読むこと 】	主体的に学習に取り組む態度
○幅広く読書に親しみ、読書が、さまざまな知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 【(3)オ】	○中心となる事柄や、表現の細かい点に着目して読み、2つの物語のつながりを考えている。【(1)オ】 ○物語の結末について感じたことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 【(1)カ】	○「戦争」をテーマとした物語を読み、読んだ本のおもしろさをブックトークで伝えようとしている。

6 学習指導計画（全12時間）

次	時	学習内容	評価			
			知技	思判表	態度	評価規準【評価方法】
一	1	○学習の見通しを持つ。 ・読んだ本のおもしろさをブックトークで伝えるという学習の見通しを持つ。	○			ブックトークをするために、「戦争」の本のテーマにはどんなものがあるか考えている。 【発言・行動観察】
二	2 ・ 3	○物語の設定、中心人物や登場人物、大体の出来事をまとめる。 ・「世界一美しいぼくの村」の場所・季節、中心人物や登場人物、大まかな出来事をまとめる。 ・「一つの花」の場所・季節、中心人物や登場人物、大まかな出来事をおさえる。		○		人物の行動や会話などをもとに、登場人物やあらすじをまとめ、2つの物語のつながりを考えている。 【発言・ノート】
	4	○中心人物の思いを読み取る。 ・ヤモが家族やパグマンの村をどのように思っているのか考える。 ・ゆみ子が家族をどのように思っているのか考える。		○		人物の行動や会話などをもとに、登場人物の思いを読み取り、2つの物語のつながりを考えている。 【発言・ノート】
	5 (本 時)	○物語の終わり方の効果について考える。 ・「世界一美しいぼくの村」の最後の一文について考える。 ・その一文の効果や登場人物のその後について想像し、話し合う。 ・「一つの花」の最後の場面の効果を考える。		○		物語の終わり方の効果について考え、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 【発言・ノート】
	6	○題名から考えたことを伝え合う。 ・村は破壊されてしまったが、なぜ「世界一美しいぼくの村」という題名なのか考える。 ・「一つ」という言葉の使われ方や、題名「一つの花」に込められた意味について考えたことを話し合う。		○		題名の意味について感想を交流し、一人一人感じ方に違いがあることに気付いている。 【発言・ノート】
	7 ・ 8	○伝えたいつながりを考えて、紹介文を書く。 ・「世界一美しいぼくの村」と「一つの花」にはどんなつながりがあったか確認する。 ・つながりを考えて紹介文を書き、プレのブックトークを行う。		○		2つの物語のつながりを考え、紹介文にまとめている。 【ノート】 ブックトークの感想を交流し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 【ノート・行動観察】
	三	9 ・ 10	○戦争や平和に関する本を読み、ブックトークで話す情報を集め、紹介文を書く。 ・自分で選んで本を読み、学習した観点などと関連付けながら情報を集める。 ・集めた情報を整理し、話すメモにまとめる。 ・自分の選んだ2冊の本の紹介文を書く。	○	○	
11 ・ 12		○ブックトークを行う。 ・友達に、自分の選んだ本の紹介をする。 ○学習を振り返る。			○	「戦争」をテーマとした物語を読み、読んだ本のおもしろさをブックトークで伝えようとしている。 【行動観察・ノート】

7 本時の指導 (5/12)

(1) 本時の目標

○物語の終わり方の効果について考え、一人一人の感じ方には違いがあることに気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

読 物語の終わり方の効果について考え、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。

(3) 達成基準 (ループリック評価)

A	B
これまでの展開をふまえて、最後の一文の効果について書いている。	最後の一文だけに着目して、その効果について書いている。

(4) 準備物

- ・ワークシート
- ・振り返りシート

(5) 学習展開

	主な学習活動[学習形態] ・予想される児童の反応	○指示・支援等 □評価規準【評価方法】 ★支援を要する児童への手立て
つかむ ⑤	<p>1 ヤモの家族やパグマンの村に対する思いを振り返り確認する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p>	<p>○最後の一文「その年の冬、村は戦争ではかいされ、今はもうありません」に対する考えが深められるように、ヤモの家族やパグマンの村に対する気持ちを想起させる。</p>
<p>作者はなぜ、この最後の一文で終わらせたのだろうか？</p>		
自分の 考えをもつ ⑩	<p>3 戦争によって破壊されたものについて考える。【個人・グループ・全体】</p> <p><なくなったもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・パグマンの村 ・平和な生活 ・世界一美しい村 ・サクランボ ・兄さんの帰ってくる場所 ・ヤモの待っていた春 <p><なくならなかつたもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族 ・ヤモは生きている ・兄さんを心配する気持ち ・春を待つ気持ち ・サクランボを自慢する気持ち <p>・パグマンの村だけではなく、そこに住む人々のくらしも破壊されてしまった。</p> <p>・世界一美しい村はなくなってしまったけど、ヤモが家族やパグマンの村を思う気持ちは破壊されていないと思う。</p>	<p>○破壊されたのが「その年の冬」であることに着目させ、ヤモが望んでいた春の直前であることをおさえる。</p> <p>○村や街並みなど物理的になくなったものだけではなく、人々の生活や希望などもなくなったことに気付かせる。</p> <p>★挿絵や前時までの振り返りなどを手がかりに考えさせる。</p> <p>【全体】</p> <p>○各グループの共通点、相違点が分かりやすいように、色分けする。</p> <p>○作品の感じ方はそれぞれ異なることをおさえ、友達の考えで自分の考えが広がることを気づかせ、次時につなげる。</p>
学び あう ⑩	<p>4 最後の一文の効果について考える。 (最後の一文が必要か考える) 【個人・ペア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもショックを受ける ・悲しくなる 	<p>○最後の一文で物語を終結させることで、より衝撃的な印象を読み手に与えるということに気付かせる。</p> <p>読 物語の終わり方の効果について考え、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。 【発言】</p>

<p>まとめる⑩</p>	<p>6 「一つの花」の最後の場面の効果について考える。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○振り返りの視点を確認し、振り返りシートに書かせる。</p> <p>○上記の観点で振り返りを評価する。</p> <p>★友達の見解と自分の考えを比べながら思ったことや考えたことなどを書かせる。</p>
--------------	---	---

(6) 板書計画

<p>ふ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような悲しい一文で終わったら、戦争のひびきがよく伝わる。 ・これまでの楽しい様子から急にこの一文が書いてあったのでショックが大きくなった。 	<p>○「一つの花」の最後の場面では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争が終わって、幸せそうにくらしている。 ・一輪のコスモスからたくさんのコスモスがさいている。 <p>↓ 明るい感じ</p>	<p>○最後の一文で終わっていること・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもショックを受ける ・悲しくなる <p>↓ 暗い感じ</p>	<p>○各グループの見解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パグマンの村だけでなく、そこに住む人々のくらしもはかいされてしまった。 ・世界一美しい村はなくなってしまったけど、ヤモが家族をや村を思う気持ちは、はかいされていない。 	<p>△なくなったもの▽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パグマンの村 ・平和な生活 ・サクランボ ・兄さんの帰ってくる場所 ・ヤモの待っていた春 <p>△なくなったもの▽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族 ・兄さんを心配する気持ち ・春を持つ気持ち ・村に対する愛 	<p>め</p> <p>作者はなぜ、この最後の一文で終わらせたのだろうか？</p>	<p>その年の冬、村は戦争ではかいされ、今はもうありません。</p> <p>「戦争」をテーマとした本を読んでブックトークをしよう</p> <p>世界一美しいぼくの村</p> <p>○ヤモの思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お兄さんに早く帰ってきてほしい ・村へのほこり 愛
--	--	--	--	--	---	--

(7) 評価の視点（はりまや橋小学校授業づくりスタンダードより）

- ① つけたい力が身についた問題・活動内容だったか（本時重点目標）
- ② 問題解決の意図と道筋を正しく理解していたか
- ③ 目標達成に向かう展開・指導になっていたか
- ④ 対話と協働が個々の学びにいかされていたか
- ⑤ 自己変容について規準に沿って振り返っていたか